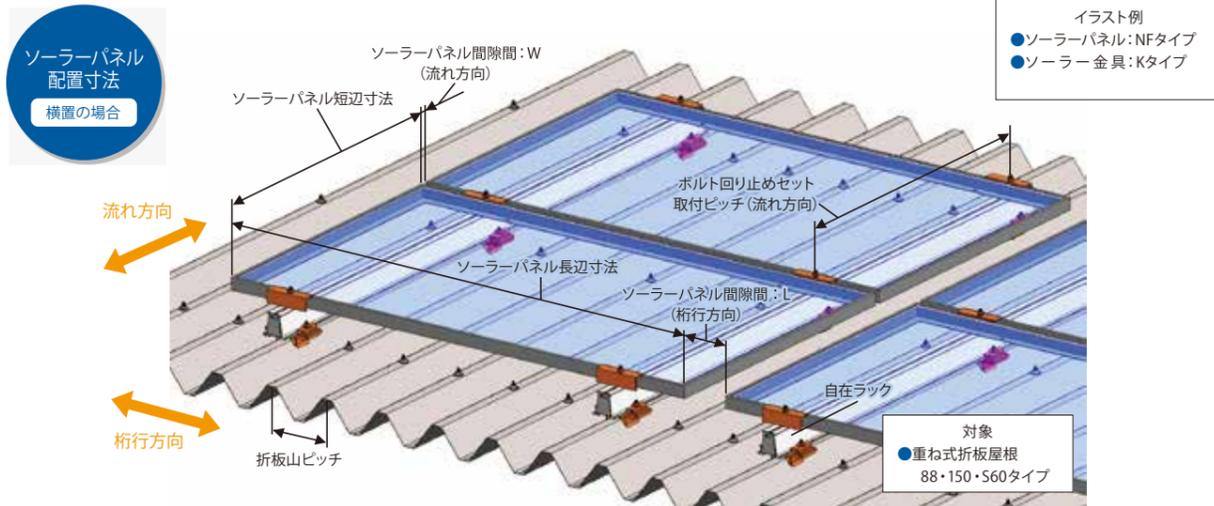


各部取合い寸法

ラック工法（重ね式屋根自在ラック）



※ソーラーパネルメーカー様にて隙間の指定がある場合は、その指定に準拠してください。

ソーラーパネル間隙間（桁行方向）：L

左右対称配置の場合 桁行方向（最小寸法）： $L = \{ \text{折板山ピッチ} \times (\text{ソーラーパネル長辺寸法} \div \text{折板山ピッチ}) \} - \text{ソーラーパネル長辺寸法}$
↓
小数点以下切り上げて整数にする

偏心配置の場合 隙間は、屋根・建物・ソーラーパネルの強度・耐久性を考慮し、ソーラーパネルメーカー様の設置（配置）仕様（条件）に準拠した上で、お客様にて決定してください。
※最小寸法が5mm未満の場合は、折板山ピッチを加算してください。

ボルト回り止めセット取付ピッチ（流れ方向）

流れ方向 = ソーラーパネル短辺寸法 + W（ソーラーパネル間隙間（流れ方向））

自在ラック取付位置（桁行方向）

桁行方向：ソーラーパネルの取付穴付近に配置してください。

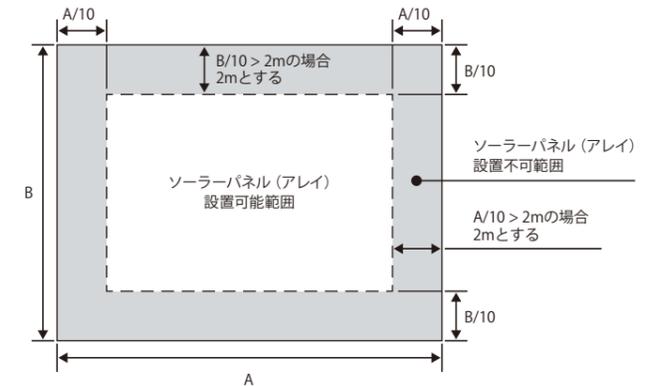
※ソーラーパネルメーカー様にて固定点数および固定位置の指定がある場合は、その指定に準拠してください。

設置条件について

- ①ソーラーパネル固定方法：ソーラーパネルフレーム押さえ固定 4又は6箇所留以上（ソーラーパネル1台あたり）
- ②屋根なり設置（屋根置き形）：アレイ面（屋根面）＝屋根勾配＝設置（傾斜）角度
- ③剣先ボルトに関して
 - I. タイプフレームに剣先ボルトがあり、剣先ボルトに著しい腐食・錆がなく、ネジ山に損傷がないこと。塗装されていないこと。
 - II. タイプフレームの座金付ナットが容易に外せること（座金付ナットが共回りしないこと）。
 - III. タイプフレームの剣先ボルトの径（インチ又はミリ）、材質・表面処理（めっき又はステン）⇒詳細は P25
 - IV. 剣先ボルトの寸法（有効ネジ部）・・・ソーラー金具取付時、六角ナット（ダブルナット）の有効ネジが剣先ボルトに全て入っていること。（必要な寸法 88タイプ：10～15mm、150・S60タイプ：10～20mm）⇒詳細は P25
※その他の設置条件についてはソーラーパネル寸法・梁間ごとの設置条件を参照してください。

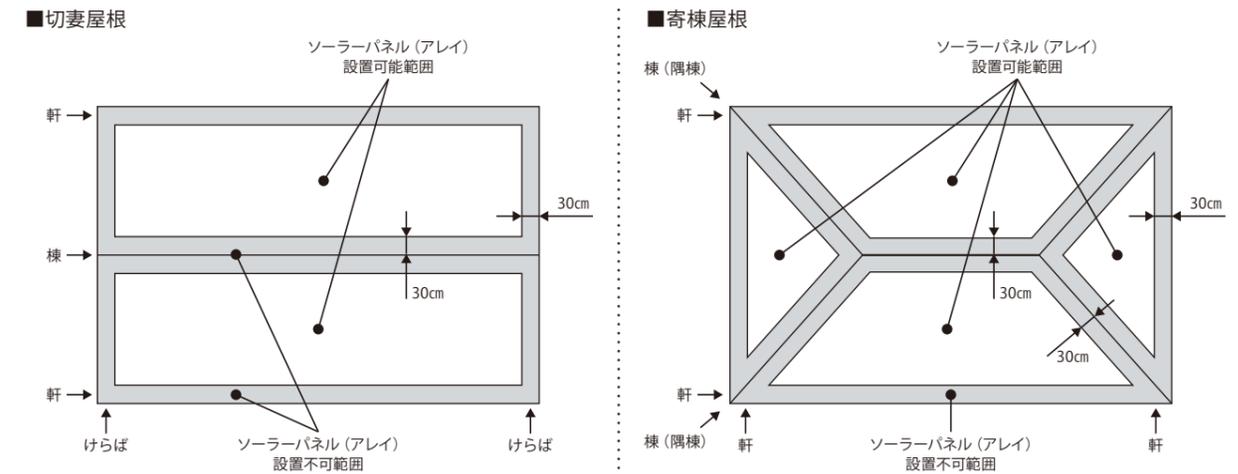
屋根設置について（ソーラーパネル設置可能範囲）

◇屋根勾配（屋根面）0°以上10°未満
設置対象屋根（建物）：
陸屋根・片流れ・切妻屋根の閉鎖型建築物



- ①アレイ（ソーラーパネルおよび金具・架台）を上記の設置対象屋根（建物）の屋根周辺部（外周のこと。屋根端部からそれぞれ辺長の10%以内の範囲とする。ただし、辺長の10%が2mを超える場合は2mとする。）へ陸屋根設置で設置する場合は、JIS C8955:2017の適用外です。
- ②ラック材（アルミ）は屋根からはみ出さないように、屋根端部から100mm以上離して設置してください。
- ③屋根周辺部や棟・妻（けらば）側などに包み等があり、既設ボルト（剣先ボルト）に被さっている場合は、ソーラー金具の取付けはできません。

◇設置（傾斜）角度10°以上40°以下
設置対象屋根（建物）：切妻・寄棟屋根の閉鎖型建築物



- ①上記の設置（傾斜）角度内で、アレイ（ソーラーパネルおよび金具・架台）を、上記の設置対象屋根（建物）の屋根周辺部（軒・けらばおよび棟から30cm以内の範囲）へ屋根置き形（勾配屋根設置）で設置する場合は、JIS C 8955:2017の適用範囲外です。
- ②以下のような寄棟屋根へのソーラーパネルの設置の場合は、この設置条件の対象外です。別途、お問い合わせください。
・屋根表面とソーラーパネル下面との最大距離dがd>50mmとなる寄棟屋根の端部ソーラーパネルを設置する場合

■：端部モジュール
寄棟屋根の端部ソーラーパネル

